

葦

大阪発達総合療育センター機関紙
第43号 2022年 冬

社会福祉法人 愛徳福祉会

大阪発達総合療育センター

Osaka Developmental Rehabilitation Center

保険医療機関 南大阪小児リハビリテーション病院



INDEX

・特集に寄せて ……………1P	・新規事業(グループホーム)のお知らせ その② ……4P
・令和3年度高木賞受賞 ……………2P	・第9回DSB基礎講習会 ……………4P
・小児在宅医療を考える会 ……………3P	・院内学会・清水賞 ……………5P
・フェニックス成人式 ……………3P	・リレーエッセイ ……………5P
	・年賀式・職員研修実績状況・寄付金と寄付物品 ……6P

特集に寄せて

社会福祉法人 愛徳福祉会
理事長

鈴木 恒彦



2022年を迎えるも、新型コロナウイルスの感染拡大の収束が見通せず、お互いに緊張感の続く昨今です。本特集は感染が一時落ち着いた昨年後半の出来事と、今年のフェニックス入所者様の成人式、竹本副院長主催による「第12回大阪小児在宅医療を考える会」の成功裏の様子が載っています。長年の職員の努力に支えられた「高木賞」受賞の件と御勢医療技術部長主催による「第9回DSB基礎講習会」の盛況は、大変ありがたいことと感謝申し上げます。新規事業グループホーム「きらり」の着工、発表の質が年々格段に向上する恒例の院内学会は頼もしい限りです。医事課佐藤氏の二歳のご長男の楽しい親子関係のエッセイからは一服の安らぎをいただきました。

特集に寄せて

南大阪小児リハビリテーション病院 院長

川端 秀彦



コロナの嵐が吹き荒れる中、今回は明るい話題を報告できる機会に恵まれました。ひとつは鈴木恒彦理事長の高木賞受賞です。詳細は記事にありますが、ひとつの施設で3人もの受賞者をだしたのは日本広しと言えども当センターだけです。これは先輩諸先生方の業績であると共に、職員の皆様ひとりひとりの弛まぬ努力があってこそこの快挙です。今後も傲ることなく日々努力していくことが、現役のわれわれの役目だと思います。もうひとつ、グループホーム事業でそれぞれの事業所の名称が決定しました。ネーミングとそれを審査した選定委員会のセンスが光っています。事業開始が待ち遠しいです。それ以外にもコロナ下での大阪小児在宅医療を考える会の大成功も明るい話題だと思います。あと少しがんばって明るい未来につなげたいものです。



令和3年度高木賞受賞

社会福祉法人愛徳福祉会 理事長 鈴木 恒彦



昨年11月10日、東京品川のザ・プリンスさくらタワー東京で、日本肢体不自由児協会総裁の常陸宮正仁親王殿下ご臨席の下に授賞式が行われ、「高木賞」を不肖私が受賞することができました。高木賞は周知のごとく、わが国で初めて肢体不自由児療育の体系を立てられ、療育事業に偉大な貢献をされた故高木憲次（のりつぐ）博士の御遺徳を永く記念するため、昭和42年に設けられた賞です。療育関係者の間では最高の荣誉ある賞として、昭和・平成・令和と引き継がれ、平成12年度には当法人名誉理事長の梶浦一郎先生、平成24年度には元センター長の廣島和夫先生が受賞されています。今回の私の分を含めて大変名誉なことと恐縮の極みのみならず、第三者の評価において当法人のこれまでの療育の歩みが認められたことを意味します。今までの職員の皆様のたゆまない努力に改めて感謝申し上げ、その功績に敬意を表したいと思えます。私としては、職員技量の更なる向上と少しでも利用児・ご家族の満足に触れるため、より緊張して今後の法人の運営を考えなければというプレッシャーを感じています。振り返れば、私の医師人生の大半は障害児者の方々の診療に明け暮れてきましたが、その中で多くの貴重な体験をさせていただき、先輩・同僚の先生方のみならず、セラピストを含む多職種の方々から沢山のことを学ばせていただきました。特にNICU～高齢の多くの「脳性まひ」の患者さんからは、それまで教えられた神経学の常識が覆される脳の発達の興味ある病態を幾度となく経験させていただきました。私の受賞理由の中で「神経学を基礎にした神経リハビリテーションの考え方を我が国に導入した……」の一節に、苦勞が報われた安堵感を覚えました。神経リハビリテーションこそ脳性まひから教えられた原点であり、その後の療育の方向性が示されたからです。しかし歴史をたどれば、神経リハビリテーションの臨床の根源は、1940年代の英国の重心施設で起こった当時亡命中のベルタボバース療法士の小さな？臨床経験から始まったのかもしれませんが。後にその経験の積み重ねから彼ら（ボバース夫妻）の提唱した療育アプローチの概念は、驚くことに我が国の高木先生が定義した療育とはほぼ同じ概念を有していました。また1970年創立された当法人の掲げた理念の中に、ボバース概念を基盤とした家庭療育を推進することが謳われていたことを鑑みると、改めて障害児に対する療育の指針を先取りした創設者の梶浦一郎・井上明生両先生の慧眼に平伏するのみです。最近のリハビリテーションは、医療経済に基づく効率的医療を目指し、数量化されたエビデンスに基づく治療のみが科学的ともてはやされる時代になっています。私どもは自分たちの足元をもう一度しっかりと見つめなおして、障がい複雑で重度なために医療と福祉の狭間で翻弄されておられる利用児・ご家族のため、全員でケアサービスを提供していきましょう。

「第12回 大阪小児在宅医療を考える会」を開催して

南大阪小児リハビリテーション病院 副院長 竹本 潔



大阪府下で多職種が連携して小児在宅医療を推し進めることを目的に開催されてきた「大阪小児在宅医療を考える会」の12回目（すなわち12年目！）の大会長を拝命し、2022年1月23日にWEB開催で盛会に終えることができました。これもひとえに、ご参加いただいた多数の方（463名）とご講演いただいた先生方、および準備にご尽力いただいた副会長の塩見医師はじめ多くの方々のおかげです。この場をお借りして心よりお礼申し上げます。

今回は2部構成とし、第1部は「在宅での呼吸ケア」をテーマに3人の先生方にご講演いただき、第2部はシンポジウム形式で、昨年9月に施行された医療的ケア児支援法を受けて「地域での医療的ケア児の受け入れの現状と課題」をテーマに、立場の異なる4人の演者（療育センター、学校、保育所、放課後デイ）にご登壇いただきました。療育センターは私から「保育所等訪問支援」をアピールしました。近年インクルーシブ教育の推進により地域の公立小学校に就学する児がとも増加していますが、現場は受け入れに戸惑っている場合も少なくありません。その溝を埋める役割を担うのが保育所等訪問支援で、近年ニーズが大変増加しており、当センターからは2020年度のべ354回訪問し、コロナ禍にもかかわらず前年比37%も増加していました。

いずれのご講演も大変興味深く、お話に引き込まれて拝聴しているうちに3時間があっという間に過ぎ、15分超過しての閉会となりました。昨今WEB開催があたり前で正直寂しい気持ちもありましたが、WEBだからこそオミクロン旋風の最中でも多くの方にご参加いただくことができました。事後アンケートも大変好評で、回答230人中初参加が57%もおられ、次回も参加希望は100%でした！本会が小児在宅に関わる全ての職種の方々にとって、少しでも参考になればとてもうれしく思います。

フェニックス成人式

2022年1月10日（祝）に、フェニックス入所3名の方の成人式を執り行いました。5階ホールで式典を執り行い、その後フェニックス3階プレイルームにて、ご家族や職員みんなで、新成人のお祝いの会を催しました。



新規事業 (グループホーム) のお知らせ その②

運営局 局長 梶浦 正



以前の輩でも紹介致しましたグループホームにつきまして続報致します。

1. 名称が「きらり」に決まりました！

グループホームの名称は職員の皆さんから公募を行いました。沢山の応募があり、その中から選定委員会により審査を行い、「きらり」に決定致しました。入居される利用者の方一人一人は必ず「きらり」と光るものを持っているという意味が込められています。多くの皆さんから愛されるグループホームを目指したいと思います。

2. 当初予定していた竣工時期が2か月程遅れる見込みです。

世界的な資材不足により建設に必要な資材も確保に苦勞しています。その結果当初の2022年3月竣工の予定が現在は2022年5月頃になる見込みです。またそれに伴い、グループホームの営業開始も当初の6月から8月にずれる予定です。

現在の工事状況につきましては、11月30日に地鎮祭を執り行い、12月6日に着工しました。現在はまだ基礎工事ですが、徐々に建物ができあがってきますので、皆さん楽しみにしててください。内装案のパーズも出来上がってきました。これによりホームのイメージが更に持てるのではないかと思います。



【後編】山崎グループホーム等建築工事 3期イメージ

3. 2022年2月から入居募集が始まります！

詳しくはホームページ上で案内しておりますのでご興味のある方は是非ご覧の上、ご応募下さい。

第9回DSB基礎講習会

医療技術部長 兼 整形外科医長

御勢 真一



令和3年11月27日に第9回DSB基礎講習会を開催しました。当院では「プレーリーくん」の愛称で認知されているDSB（動的脊柱体幹装具）ですが、講習会を開くまでは「プレーリーくん」が他府県に誤った広まり方をしていました。そこでDSBの概念を正しく理解してもらうために毎年講習会を続けてきました。最近では学会でも全国各地からDSBに関連する発表を目にするようになり、地道な活動が芽を出してきたと実感しています。今年はコロナ禍ではありま

すが、DSBの事を肌で体感してもらうために現地開催となりました。

参加者は全国から整形外科、小児科、リハビリテーション科の医師6名、義肢装具士4名にお集まりいただきました。センター5階ホールでの座学に続き、二人のセンター利用者にも協力していただき体の採型実習を行いました。その後義肢装具士には桃が池の製作工場に移動してもらい、DSB製作実習と続けました。地元に戻られてからも実際にDSBを製作・使用していただき、効果を実感していただければと思っています。今回の実習を通じて自らもDSBの歴史を振り返ることが出来ました。これからは進化し続けるDSBにご期待ください。





院内学会・清水賞



第10回南大阪小児リハビリテーション病院 院内学会

- | | | |
|-------------|--|-----------------------------------|
| 最優秀賞 | 保護者の主体的参加を引き出す支援
～「器具部」の効果～ | あさしお園
大住 亮介 有馬麻衣子 井戸 杏 |
| 優秀賞
(2位) | 重症心身障がい者施設における長期臥床者の
拘縮手に対する効率的な手指衛生の検討 | 看護部 三樹みゆき 山田すみれ
療育部 吉田 大伍 平嶋 尚 |
| 優秀賞
(3位) | 人工呼吸器機種VOCSNに付帯する排痰補助機能の
有用性について | 医療技術部 臨床工学科 前田 俊治 |

◆受賞者コメント 最優秀賞 あさしお園・大住亮介・有馬麻衣子・井戸杏
10年の記念すべき年に、あさしお園一丸となり最優秀賞を受賞でき大変光栄です!これからも精進します。

清水賞

- | | | |
|-----|---|-----------------------------|
| 清水賞 | 重症心身障害児者を対象としたMI-E施行時の徒手
による呼気・呼気介助の有無によるCPFの検討 | リハビリテーション部 井上 伸
医務部 竹本 潔 |
| 奨励賞 | 手指への接触による姿勢制御を日常生活へ汎化
させる取り組み -CHORと姿勢制御の観点から- | リハビリテーション部 米持 喬 |
| 奨励賞 | スタッフのコスト意識を高め、算定漏れを減少させる取り組み
キーワード:コスト管理意識 算定漏れ 行動変容 | 看護部
中山 美里 益子 由美 梶原 綾 |

◆受賞者コメント 清水賞 リハビリテーション部・井上伸 医務部・竹本潔
今回の清水賞はご協力いただいた入所者様、竹本先生をはじめ、ME、看護師、リハ部の皆様のおかげだと思っております。これからもチームでの取り組みとして続けていきたいと思っております。ありがとうございました。



医事課 佐藤 裕俊

一昨年のうるう日に長男が生まれました。
コロナ禍に突入したところでしたが、立ち合い出産をすることができたのは運がよかった。そんな我が子も二歳を迎え、現在所謂イヤイヤ期真最中。おはようからおやすみまで大いに振り回されています。覚悟はしていましたがこれ程とは…と思う反面、自分の想いを持って何とか表現しようとしている姿に「成長」を強く感じる毎日です。
沢山の出産祝いのお言葉を頂いた中「子供が親にしてくれるよ」という一言がとても印象に残っています。その時は漠然とそういうものだと感じましたが、子供が生まれてから感じた一喜一憂はとても新

鮮で濃密なものでした。まだまだ刺激を与え続けてくれる我が子に置いて行かれないよう、また、将来胸を張って「おまえが私を親に



元旦で迎えた初めての積雪

してくれた」と言えるよう、自分に活をいれて成長し続けていきたいものです。
次回は医務部整形外科 奥野杏子先生です。
お楽しみに!

イベントピックアップ 年賀式



2022年1月4日、5階ホールにて年賀式を執り行いました。
鈴木理事長の年頭の挨拶の後、各種表彰を行いました。



感謝

大阪発達総合療育センターへの
御理解・御協力誠にありがとうございます
(R3.10～12)

一般寄付金

月	寄付者 (敬称略)	
10月分	匿名	本園
	竹本 潔	本園
	船戸 正久	本園
	10月分楽基金 2件	本園
12月分	細井 雅之	あさしお園
	万代(株)	本園

寄付物品

寄付者 (敬称略)		物品名	
10月分	中村 拓海	ポッチャボール	本園
	匿名	おもちゃ	本園
	馬引 智江	おもちゃ	あさしお園
	匿名	おもちゃ・書籍	本園
11月分	谷口 葉月	おもちゃ	本園
	匿名	ベビーカー	本園
	匿名	おもちゃ	本園
12月分	匿名	クラッチ	本園
	匿名	書籍	本園

教育研修実施状況

令和3年10月～12月

当センターでは、質の高いチーム医療の提供をめざして、様々な職員研修を行い、技術の向上と知識の蓄積を図っております。

実施日時	企画部署	研修名	講師	参加人数	場所
令和3年10月5日(火) 17:40～19:00	感染管理委員会 教育研修部	感染管理対策研修 「个人防护具の適切な装着と ノロウイルス嘔吐時の対応」	大阪府済生会泉尾病院 感染管理認定看護師 田中ちよ氏	112名	5階ホール他
令和3年11月30日(火) 17:40～18:40	セーフティマネジメント委員会 教育研修部	医療安全管理研修 「何で出来ない! ～怒っちゃダメダメ・行動変容～」	医務部小児科医長 飯島禎貴	94名	5階ホール他

院内学会

実施日時	企画部署	研修名	講師	参加人数	場所
令和3年12月28日(火) 13:30～17:00	教育研修部	演題発表	療育部 谷崎雄斗	235名	5階ホール他
		「入院中にADLが低下したA氏への退院支援の取り組み」			
		「活動・参加からみえる意思決定支援」	リハビリテーション部 佐久間啓文 今野瑠香		
		「保護者の主体的参加を引き出す支援～「器具部」の効果～」	あさしお園 大住亮介 有馬麻衣子 井戸杏		
		「重症心身障がい者施設における長期臥床者の 拘縮手に対する効率的な手指衛生の検討」	看護部 三樹みゆき 山田すみれ 療育部 吉田 大伍 平嶋 尚		
		「人工呼吸器機種VOCSNIに付帯する排痰補助機能 の有用性について」	医療技術部臨床工学科 前田俊治		
		「困ったなあ～。どうする?どうしよう?」	地域医療連携部地域医療・福祉 相談室 藤永みどり		
		講演会 「脳性まひ療育のこれからの方向性 -私見-」	理事長 鈴木恒彦		
説明会 「新規事業について」	運営局長 梶浦 正				



大阪発達総合療育センター

URL : <http://osaka-drc.jp>

発行者・社会福祉法人 愛徳福祉会
発行責任者・鈴木恒彦

南大阪小児リハビリテーション病院(保険医療機関)
フェニックス(医療型障がい児入所施設・療養介護事業・短期入所事業)
主として重症心身障がい児者
わかば(医療型障がい児入所施設・短期入所事業)主として肢体不自由児
ふたば(児童発達支援センター・保育所等訪問支援事業)主として肢体不自由児
いぶき(特定相談支援事業・障がい児相談支援事業)
なでしこ(生活介護事業・児童発達支援事業)

〒546-0035 東住吉区山坂5-11-21
TEL:06-6699-8731 FAX:06-6699-8134

訪問看護ステーション めぐみ(指定訪問看護事業)
TEL:06-6699-8855 FAX:06-6699-8856
ヘルパーステーション めぐみ(指定訪問介護事業)
TEL:06-7506-9223 FAX:06-6699-8856
〒546-0035 東住吉区山坂5-9-16

大阪発達総合療育センター あさしお診療所(保険医療機関)
あさしお園(児童発達支援センター・保育所等訪問支援事業・障がい児相談支援事業)主として肢体不自由児
ゆうなぎ園(児童発達支援センター・保育所等訪問支援事業・障がい児相談支援事業)主として難聴児
〒552-0004 港区夕風2-5-3
TEL:06-6574-2521 FAX:06-6574-2524